Ⅳ 資料編 …… 115

1．総合計画策定体制 …… 116
2．第５次貝塚市総合計画の策定経過 …… 117
3．貝塚市総合計画条例 …… 118
4．貝塚市総合計画審議会規則 …… 119
5．貝塚市総合計画審議会委員名簿 …… 121
6．諮問 …… 122
7．答申 …… 123
8．貝塚市総合計画策定市民会議設置要綱 …… 125
9．貝塚市民憲章 …… 126

Ⅰ　序章

1 計画策定の趣旨

本市では、昭和 46 年（1971 年）に第 1 次貝塚市総合計画基本構想を策定以来、時代の流れに適したまちづくりを進めるため、昭和 58 年(1983 年)に第 2 次、平成 7 年(1995 年）に第 3 次、平成 18 年（2006 年）に第 4 次総合計画を策定し、本市がめざす将来像と、これを実現するために取り組むべき施策を示してきました。

この間、地方分権改革の進展、少子高齢化や人口減少による人口構造の変化、経済の低成長化と就業形態の多様化など社会経済情勢は刻々と変化し、本市人口においても平成 21 年（2009 年）の 90,600 人台をピークに、以後、減少に転じています。

このような中、行政サービスの水準やまちの活力を維持・向上し、市民が住み続けたいと思う魅力あるまちとなるよう、新たなまちづくりの指針となる第 5 次総合計画を策定します。

2 貝塚市のこれまでのまちづくり

本市では、高度経済成長期終盤の昭和 46 年（1971 年）に、長期的展望に立った都市像を描き、開発整備の方向を明らかにするため、「緑豊かな生活都市の創造」を目標とする第 1 次総合計画基本構想を策定しました。

その後の石油危機を契機として、日本経済の基調が大きく変化する中、昭和 58 年（1983 年）策定の第 2 次総合計画では、市民生活の向上と活力ある都市形成に向けて、「豊かな自然と共存する産業文化都市の創造」を目標としてまちづくりを進めてきました。

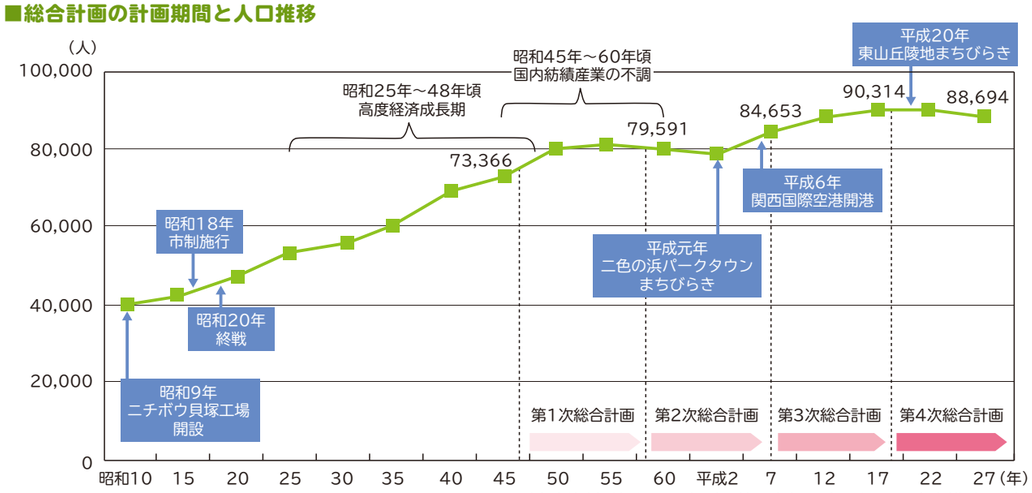
関西国際空港開港後の平成 7 年(1995 年)には、世界に開かれた都市の形成を目標として、まちづくりの理念を「であい ふれあい ひろがるまち・かいづか 活力あふれる住みよい交流都市の創造」と定めた第 3 次総合計画を策定し、この理念に基づき、市政運営を進めてきました。

平成 18 年（2006 年）に策定した第 4 次総合計画においては、市民・産業・自然の元気があふれるまちの実現を目標に、「元気あふれる みんなのまち 貝塚」をまちづくりの理念として、自然環境と都市機能が調和した安全・安心なまちづくりを推進してきました。その結果、各政策分野における施策はおおむね順調に進展していますが、近年の社会情勢の変化に伴う扶助費の増加や公共施設の老朽化の進行など、今後に引き続く課題も多く残されています。

■貝塚市のこれまでのまちづくり

総合計画	将来像	まちの変遷
第 1 次総合計画基本構想 昭和 46 年 （1971 年）	**緑豊かな生活都市の創造** 地域の特性に応じた発展をめざし、市民生活、土地利用、都市施設の将来を構想する。	（S.47）第二阪和国道　貝塚市内供用開始、貝塚駅南地区再開発第一工区竣工 （S.46 ～ 51）市立幼稚園 4 園、保育所 1 園開設 （S.52）カルバーシティ市寄贈「友情の像」除幕式 （S.53）暴力排除都市宣言 （S.55）貝塚市民福祉センター開設
第 2 次総合計画 昭和 58 年 （1983 年）	**豊かな自然と共存する産業文化都市の創造** ①快適な居住都市の創造 ②連帯に基づく福祉都市の創造 ③個性豊かな文化都市の創造 ④活力ある産業都市の創造	（S.58）核兵器廃絶・平和都市宣言 （S.59）貝塚市立総合体育館開館 （S.62）関西国際空港起工式 （H. 元）「二色町」まちびらき、市民図書館・浜手地区公民館開館、市の木「カイヅカイブキ」・市の花「コスモス」に決定 （H. 2）阪和自動車道開通 （H. 3）山手地区公民館開館 （H. 4）善兵衛ランド・産業文化会館開館 （H. 5）市制 50 周年、コスモスシアター・自然遊学館開館、市民の森開設 （H. 6）第 1 回泉州国際市民マラソン開催、府道貝塚中央線全線開通、関西国際空港開港
第 3 次総合計画 平成 7 年 （1995 年）	**であい ふれあい ひろがるまち・かいづか 活力あふれる住みよい交流都市の創造** ①美しく暮らしよい環境充実都市 ②心豊かに支え合う健康福祉都市 ③人を育て文化を発信する生活文化都市 ④活力ある開かれた産業創造都市	（H. 7）保健（福祉）合同庁舎開設 （H. 8）市立貝塚病院全面改築 （H.10）貝塚市立子育て支援センター開設、第 1 回市民スポーツの日開催 （H.12）ほの字の里開設、三ケ山配水場・三ツ松受水場設置 （H.14）貝塚市ホームページ開設 （H.15）は～もに～ばす運転開始 （H.16）バレーボールのまち推進事業開始
第 4 次総合計画 平成 18 年 （2006 年）	**元気あふれる みんなのまち 貝塚** ①市民の元気あふれるまち ②産業の元気あふれるまち ③自然の元気あふれるまち	（H.18）岸和田市貝塚市クリーンセンター移転・稼働開始、木積ポンプ場設置 （H.20）東山まちびらき （H.22）市立東山小学校開校 （H.24）貝塚市イメージキャラクターつげさんデビュー （H.25）貝塚市教育研究センター開設

■総合計画の計画期間と人口推移



（本市資料：統計かいづか（国勢調査年を除く人口は、本市推計人口））

3 計画の目標年次と構成

目標年次

第５次貝塚市総合計画の目標年次は、平成 37 年度（2025 年度）とし、計画期間を平成 28 年度（2016 年度）からの 10 年間とします。

構成

総合計画は、基本構想と基本計画から構成します。また、それぞれの位置づけは次のとおりとします。

基本構想

本市のまちづくりの指針であり、今後 10 年間のまちづくりの視点や方針、まちの将来像及びその実現に向けた取組みの方向性を示します。

基本計画

基本構想に描いたまちの将来像を実現するため、分野ごとに課題把握、目標設定及び目標実現のための取組みなどを示します。

今後の進捗状況や社会情勢を勘案し、必要に応じた見直しを行います。

4 貝塚市の現況

貝塚市の概要

位置、交通

本市は、大阪市の中心部から南に約 30㎞、鉄道で約 30 分の距離にあり、大阪市と和歌山市のほぼ中間に位置します。市域面積は 43.93㎢であり、東西に約 4.8㎞、南北に約 16.0㎞の細長い地形を有し、北は大阪湾、南は和泉葛城山を経て和歌山県紀の川市と接しています。

山から海にかけての多彩な地形には、国の天然記念物に指定されているブナ林を育む和泉葛城山や、白砂青松の二色の浜、市内を縦貫して流れる近木川など、優れた自然環境を有しています。

交通面では、関西国際空港に近接し、鉄道では南海本線、JR 阪和線、道路では阪神高速道路湾岸線、阪和自動車道、国道 26 号及び 170 号などの充実した広域交通体系で周辺地域と結ばれるとともに、水間鉄道が市内の骨格を形成する公共交通としての役割を果たしています。

沿革

本市は、奈良時代に創建された水間寺や中世の自治都市であった寺内町などの歴史的資源、太鼓台やだんじり祭りなどの伝統行事を受け継ぐとともに、つげ櫛などの伝統産業、近代以降に発展した繊維・ワイヤロープといった地場産業など、独自の文化と産業を持ったまちです。

明治 22 年（1889 年）の町村制施行時に貝塚町が誕生し、昭和６年（1931 年）に麻生郷村、島村、南近義村、北近義村と、昭和 10 年（1935 年）に木島村と、昭和 14 年（1939 年）に西葛城村と合併し、昭和 18 年（1943 年）に貝塚市が誕生しました。

人口と世帯数

市制の施行当時、約４万２千人であった本市の人口は、戦後の高度経済成長とともに年々増加し、昭和 32 年（1957 年）には６万人、昭和 41 年（1966 年）には７万人、昭和 51 年（1976 年）には８万人を超え、以後、平成 21 年（2009 年）の約９万 600 人まで増加しました。

第４次総合計画では、東山丘陵地開発による転入などを見込み、引き続き人口は増加するものと想定し、平成 27 年度（2015 年度）の目標人口を 10 万５千人と設定していました。

しかし、全国的に少子高齢化が進行する中、本市においても平成 22 年（2010 年）以後、死亡者数が出生者数を上回る自然減となり、転出者と転入者を比較した社会増減においてはこの 10 年間増減を繰り返しているものの、人口は平成 21 年（2009 年）をピークに年々減少し、平成 27 年（2015 年）では約８万 8,700 人となっています。

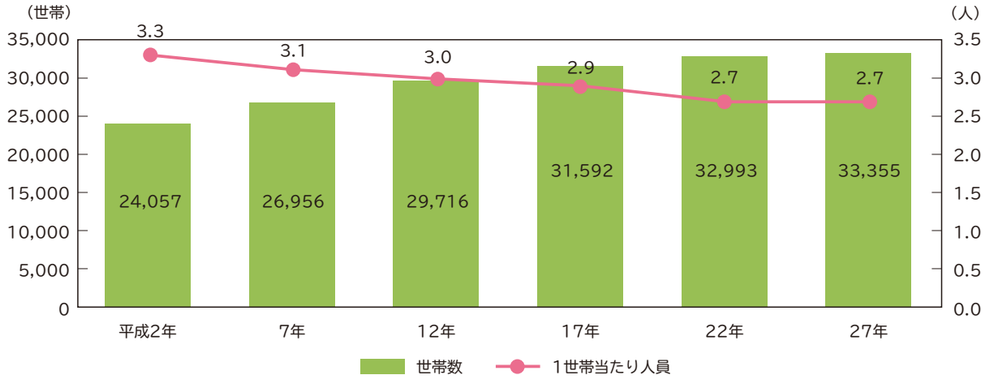
■近年 10 年間における人口推移（単位：人）

平成	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年
推計人口	90,406	90,572	90,540	90,629	90,519	90,425	90,344	89,989	89,735	88,694

（本市資料：統計かいづか（国勢調査年を除く人口は本市推計人口））

また、世帯数については、平成 7 年（1995 年）に約 2 万 7 千世帯であったものが、平成 17 年（2005 年）には約 3 万 1,500 世帯、平成 27 年（2015 年）には約 3 万 3 千世帯と増加傾向で推移していますが、一方で 1 世帯当たりの人員は、平成 7 年（1995 年）の 3.1 人から平成 17 年（2005 年）は 2.9 人、平成 27 年（2015 年）は 2.7 人と減少する傾向にあります。

■世帯数の推移



（本市資料：統計かいづか（国勢調査年を除く人口は本市推計人口））

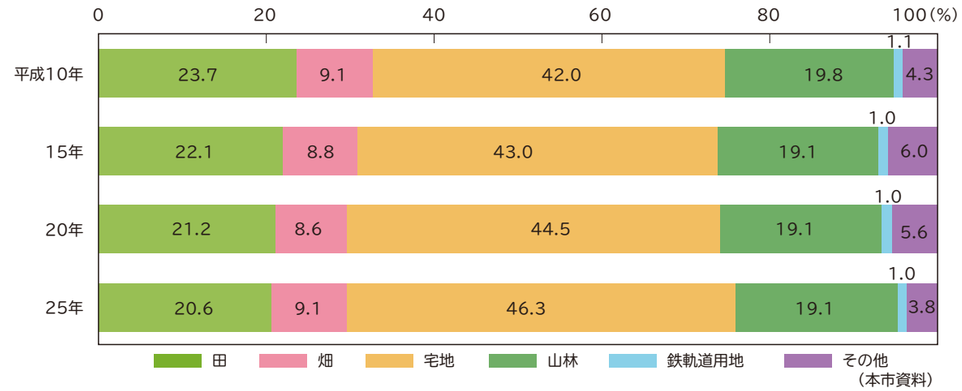
東山小学校

土地利用、住宅の状況

本市の土地利用別面積とその構成比をみると、宅地面積は増加しつつある一方、田や山林は、面積、構成比とも減少しています。

これは、平成 20 年（2008 年）に東山丘陵地に計画人口 6 千人の新しいまちがまちびらきしたほか、JR 和泉橋本駅東地区などの地区計画により、市街化区域周辺における住宅地の開発が進んだことが要因であると考えられ、現在も引き続き民間による優良な環境の住宅提供が行われています。

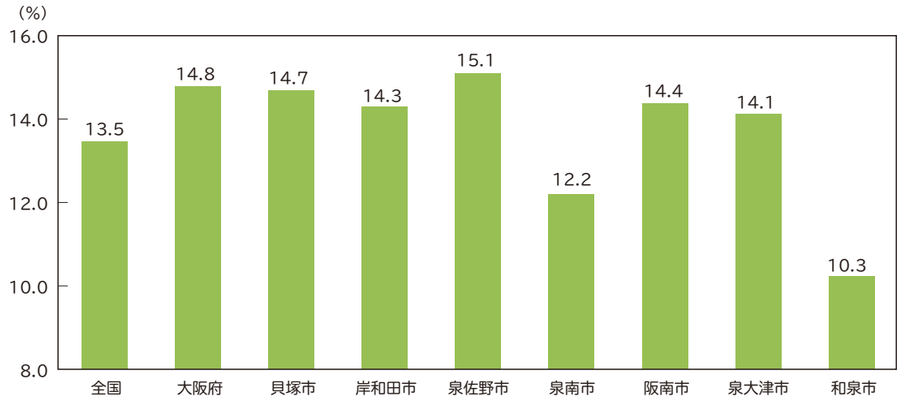
■土地利用別面積割合の推移



（本市資料）

本市の住宅戸数は平成 25 年（2013 年）現在約 39,600 戸で、このうち「居住世帯あり」が 84.8% となっています。また、人が居住しない「居住世帯なし」が 15.2% で、そのうち、建築中の住宅などを除いた「空き家」が 14.7% を占めており、空き家率は全国平均より高く、大阪府とほぼ同率となっています。

■空き家率の比較



（総務省　平成25年住宅・土地統計調査）

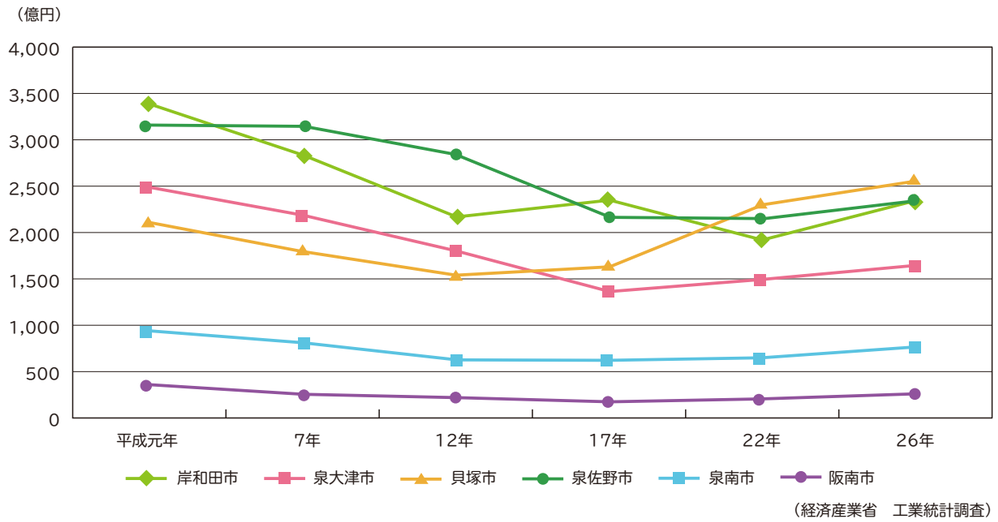
産業

本市の従業者数は、平成 8 年（1996 年）の約 32,000 人をピークに、平成 24 年（2012 年）では約 30,000 人と減少傾向にあります。産業別従業者の割合では、第 2 次産業が減少する一方、第 3 次産業は増加傾向となっています。

また、繊維やワイヤロープなどの地場産業が弱体化する一方、二色の浜環境整備事業の完了により、二色の浜産業団地への企業立地が進みました。

さらに、阪神高速道路湾岸線や阪和自動車道などの高速道路の整備により、関西国際空港へのアクセスが飛躍的に向上し、二色の浜産業団地等に積極的に企業誘致を進めた結果、国内大手企業の生産拠点などが進出したため、製造品出荷額は泉南地域の各市が減少傾向にある中、近年増加を続けています。

■製造品出荷額の推移



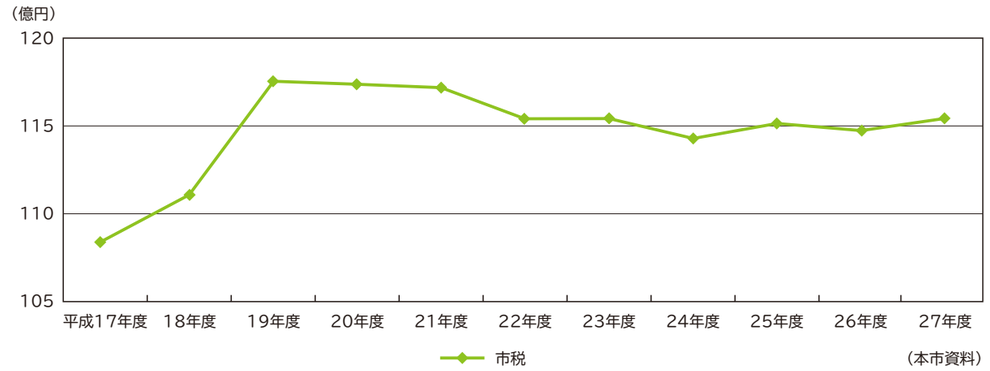
（経済産業省　工業統計調査）

行財政運営

普通会計の状況をみると、平成 16 年度（2004 年度）以降、実質収支では黒字決算を維持しています。

歳入のうち市税収入は、近年の景気低迷により今後も大幅な増加は見込めない状況にありますが、二色の浜産業団地への企業誘致や東山丘陵地の開発などを積極的に進めてきた効果もあり、大幅に減少することなく、ほぼ横ばいで推移しています。

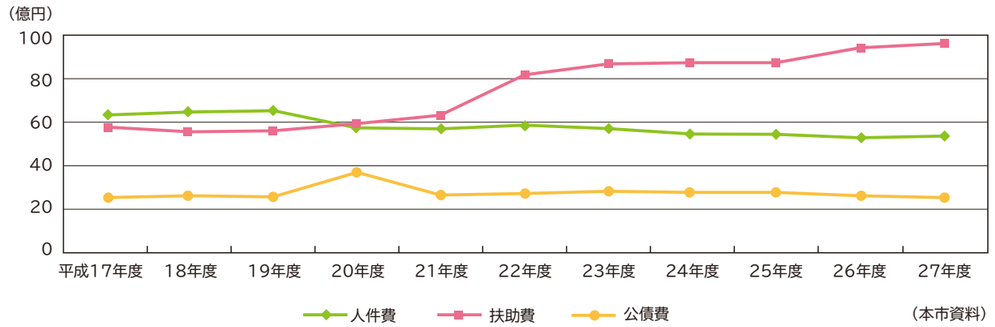
■市税収入の推移



（本市資料）

歳出については、第 1 次・第 2 次財政健全化計画や行財政改革実施計画、貝塚新生プランに基づく行財政改革を着実に実行し、人件費をはじめとする経費の縮減を行ってきました。生活保護費や子育て支援にかかる経費などの増加により、扶助費は全体的に上昇傾向にあるものの、投資的事業を抑制してきたことにより、公債費は減少傾向にあります。

■歳出（人件費、扶助費、公債費）の推移



（本市資料）

こうした中、財政の健全性を判断するための４つの指標からなる健全化判断比率においては、平成19年度（2007年度）の公表以来、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率及び将来負担比率のすべての指標で、これを超えるとイエローカードとされる早期健全化基準を大きく下回っています。

■ 27年度決算に基づく健全化判断比率

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
健全化判断比率 （単位：%）	ー （12.59）	ー （17.59）	11.2 （25.0）	62.9 （350.0）

※ーは、赤字がないため赤字比率が発生していないことを示します。
カッコ内の数値は、これを超えると早期健全化団体とされる本市の基準数値です。

貝塚市役所本庁舎

5 第４次総合計画における取組み

平成18年度（2006年度）からこれまで、『元気あふれる みんなのまち 貝塚』というまちづくりの理念に基づき、「美しく暮らしよい環境創造都市」、「安全安心の健康福祉都市」、「個性豊かな文化発信都市」、「活力あふれる産業振興都市」の４つの都市像を掲げ、施策を展開してきました。

「美しく暮らしよい環境創造都市」に関する取組み

水間鉄道の利用促進や福祉型コミュニティバス（は～もに～ばす）の増車・増便などによる公共交通機関の利便性向上、東山丘陵地開発などによる良質な民間住宅の供給、上水道施設の耐震化及び水道未普及地の解消、公共下水道の整備や合併処理浄化槽の普及促進、小・中学校校舎の耐震補強を実施したほか、道路や駅のバリアフリー化、市民との協働による河川や道路の環境保全などを推進してきました。

「安全安心の健康福祉都市」に関する取組み

子ども医療費助成の対象年齢引上げなどの子育て支援や、高齢者への住まい・医療・介護予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築、居宅生活支援など障害者（児）施策の充実に努めたほか、市立貝塚病院におけるがん診療機能の強化や緩和ケア病棟の開設による医療体制の充実、また、地域防災計画の抜本改正や自主防災組織の拡充、防犯カメラ設置助成といった地域防災・防犯力の向上など、福祉の向上と安全・安心の充実を推進してきました。

「個性豊かな文化発信都市」に関する取組み

教育研究センターにおける教職員研修の充実や学校相談員・学校司書の配置、小・中学校校舎の耐震化やトイレの洋式化など教育環境の整備、公民館イベントの多様化や競技スポーツ大会出場奨励金交付事業の創設など社会教育やスポーツの振興、イメージキャラクター「つげさん」をはじめとする市の知名度向上を図ったシティセールス事業、善兵衛ランドや自然遊学館を活用した体験型教育などを展開してきました。

「活力あふれる産業振興都市」に関する取組み

二色の浜産業団地をはじめ市内への企業誘致を推進した結果、製造品出荷額が増加し、市内での雇用の拡大にもつながりました。商工業においては、プレミアム商品券事業やふるさと納税の返礼品として全国に特産品のPRを図るなど商店街の振興と市内産業の活性化、融資制度の充実などによる市内事業者の支援を行いました。

また、農業においては、新規就農者支援や農家の経営安定化による地域農業の発展を図ってきました。さらに、合同就職面接会や就労支援講座、就労相談の実施などにより雇用の確保や労働環境の向上に取り組みました。

6 市民の想い

市民アンケート調査の概要

第５次総合計画策定にあたり、市民の身近な環境や市の将来像などについて意見を把握し、まちづくりの方向性を定めるための基礎資料とすることを目的に、平成 26 年（2014 年）に 15 歳以上の市民 4,000 人を対象とした市民アンケート調査を実施しました。

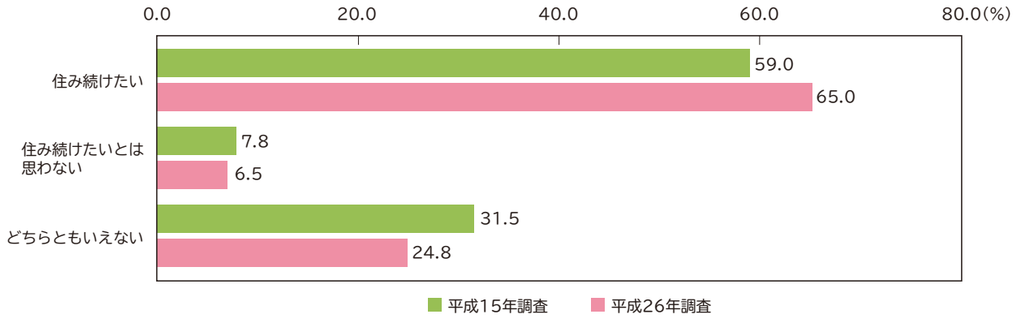
「将来にわたり貝塚市に住み続けたいと思いますか」という問いに対し、「住み続けたいと思う」と答えた市民が 65.0% を占めたのに対し、「住み続けたいとは思わない」が 6.5% となり、平成 15 年（2003 年）に実施した前回調査に比べ定住意向は高くなっています。

一方で、「どちらともいえない」との回答が約 25% あり、市民が住み続けたいと思う魅力あるまちづくりのための方策が必要です。

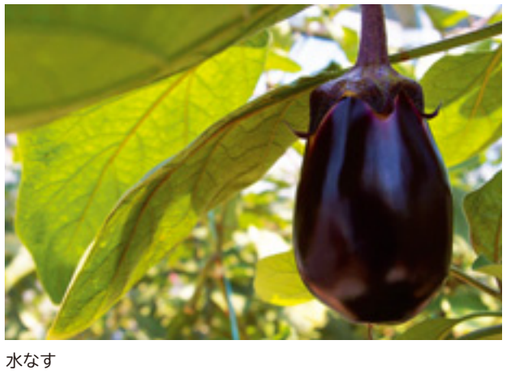
「住み続けたい理由」（3 つまで選択）としては、「住み慣れて地域に愛着がある」が 58.3%、「海や山などの自然環境に恵まれている」が 43.5% と上位を占めています。また、前回調査と比べ、「今住んでいる住宅に満足している」、「買い物など生活に便利」、「通勤・通学に便利」と回答した人の割合が増えています。

「貝塚市を象徴するもの」（3 つまで選択）としては、「水間寺」、「二色の浜」、「水なすなどの特産品」が上位を占めました。

■市民アンケート調査結果　前回調査との比較（定住意向）



水間寺


水なす

■住み続けたい理由（3 つまで選択）

	平成１５年調査		平成２６年調査	
1 位	住み慣れて地域に愛着がある	64.2%	同左	58.3%
2 位	海や山などの自然環境に恵まれている	43.9%	同左	43.5%
3 位	今住んでいる住宅に満足している	32.8%	同左	37.7%
4 位	買い物など生活に便利	27.9%	同左	30.4%
5 位	隣近所の人間関係が良い	23.2%	同左	19.7%
6 位	歴史的まち並みや祭りなどの伝統がある	13.5%	同左	14.0%
7 位	身近に公園や緑地がある	10.9%	通勤・通学に便利	13.5%
8 位	通勤・通学に便利	10.2%	ごみ処理や下水道などの衛生環境が良い	12.4%
9 位	仕事や学校の都合	9.0%	身近に公園や緑地がある	8.3%
10 位	医療機関などの面で安心	7.8%	コミュニティ施設が充実	5.8%

■貝塚市を象徴するもの（3 つまで選択）

	平成１５年調査		平成２６年調査	
1 位	水間寺	65.7%	水間寺	50.3%
2 位	二色の浜公園	50.2%	二色の浜	49.2%
3 位	水なすなどの特産品	32.4%	水なすなどの特産品	38.7%
4 位	だんじり祭り	24.2%	バレーボールのまち	33.7%
5 位	バレーボールのまち	18.8%	だんじり祭り	23.1%
6 位	水間鉄道	15.6%	水間鉄道	16.8%
7 位	つげ櫛などの伝統工芸品	12.2%	太鼓台まつり	14.4%
8 位	太鼓台まつり	10.5%	善兵衛ランド	9.2%
9 位	願泉寺や寺内町	9.5%	願泉寺や寺内町	9.1%
10 位	コスモスシアター	7.6%	つげ櫛などの伝統工芸品	7.7%

市民会議からの提言

第５次総合計画の策定にあたり、市民が普段感じている想いを計画に反映させるため「市民会議」を全４回開催し、25 人の公募市民のみなさんにご参加いただきました。

市民会議は「みんなで語り考えよう 貝塚市のまちづくり」をテーマとし、市民のみなさんが普段感じている本市の良いところや良くないところ、10 年後どんなまちになっていてほしいかなど、具体的な提案を行っていただきました。

私たちの「まち」の良いところ

- 地域のつながり 助け合いがある
- 学校と地域との つながりが強い
- 海や山 身近に 触れ合える自然がある
- 歴史・文化施設や 古いまち並みがある
- 「ものづくり現場」 二色の浜産業団地がある
- 市内中央を縦断する 水間鉄道がある

市民のみなさんが、本市が持つ地域の様々なつながりを大切に感じていること、また、自然や歴史をはじめとした本市独自の資源が豊富にあると感じていることが伺えます。

市民会議が提言するまちの将来像

- ○車がなくても誰もが暮らせるまち
- ○子育て層とシニア層が共に支えあえるまち
- ○人の絆が地域を生かすまち
- ○子どもも高齢者も安心して暮らせるまち
- ○地域で防犯・防災ができるまち
- ○誇りを持てるまち
- ○歴史・文化施設を生かし、未来につなげるまち
- ○みんなの心が通いあうまち
- ○教育ナンバーワンのまち

人口減・少子高齢化社会へと移行する中、地域資源やつながりを生かし、貝塚らしい穏やかなまちでありながら、希望を持って暮らせる活力のある貝塚市であることが望まれています。

Ⅱ 基本構想